

幸手市立幸手小学校の取組

幸手市立幸手小学校(森祥一校長)は、今年開校百五十周年を迎えた、市内で最も歴史のある学校です。息づく伝統の中に、最先端のICTをベストミックスさせることで、児童及び教師の力を最大限に引き出す教育を実践しています。十一月十六日(火)に幸手市教育委員会が訪問した際の取組を紹介します。

デジタル教科書の活用②

十月二十六日発行の「幸手GIGA WAR A版 第肆号」でも紹介したデジタル教科書ですが、幸手小学校では国語のデジタル教科書と、まなビューアというデジタル教科書教材を使用するためのビューアアプリケーションを用いて、利活用を進めています。



教科書の本文や図表を「マイ黒板」に引き出せる!

この日参観した五年生の国語の授業では、「固有種が教えてくれること」という説明文の教材を扱っており、「各段落に見出しをつけること」がこの時間の主な学習活動でした。見出しをつけていくには、本文から重要な語句を見つけ、引用したり要約したりする力が求められます。その際、「マイ黒板」という便利な機能が「まなビューア」には搭載されています。



活動を見ましたが、どの子もこの機能を使いこなし、自分の力で見出しをつけていました。また、整理した画面をもとに友達と話し合うことで、気付きが広がります。児童たちはグループになり、まとめたものを交流するとともに、必要に応じて加除修正するなどし、考えを深めていました。

紙媒体との使い分け

デジタル教科書の導入により、従来使われてきた紙媒体の教科書やノートはどうなっていくのでしょうか。

「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議第一次報告」では、両者の比較が示されています。デジタル教科書 試行錯誤が容易であること、デジタル教材と連携させて活用することにより、学びの幅を広げたり内容を深めたりすることができる。

紙の教科書 主たる教材として学校教育の基盤を長年支えてきたこと、また、例えば、一覽性に優れている等の特性や、書籍に慣れ親しませる役割がある。

このように、それぞれ特徴があり、デジタルと紙の使い分けが重要になってきます。例えば参観した五年生の授業では、教科書を音読する際、児童が紙がデジタルか選んでいます。一方、見出しをつける活動はデジタルノートで、課題・まとめ・感想の記入は紙のノートで行っていました。「目的や身に付けさせたい資質・能力に応じた使い分け」を今後も検討していく必要があります。



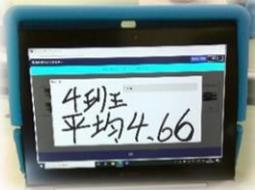
幸手市立東中学校の取組

幸手市立東中学校(渡辺真由美校長)は、全校生徒百七名という小規模の中学校です。小規模の強みを生かしたきめ細やかな教育を実践しています。十一月十七日(水)に幸手市教育委員会が訪問した際の取組を紹介します。

教科の本質に迫った授業

この日参観したのは三年生の理科の授業で、「物体のもつエネルギーと速さの関係」について、実験をおこなって検証することが主な学習でした。左の写真にあるように、グループに一台用意された装置(レールをスタンドで固定し、小球が転がるようにしたもの)を使い、材質(質量)の異なる小球を一定の位置から転がします。レールの一番下まで転がった小球は、その後水平方向に転がることになり、その際の小球の速さを速さ測定器で実測するという実験でした。今回は、質量の違いと速さの関係を調べていくため、高さは固定し、何度もデータを取っていくことになりました。

従来ですと、グループで測定した後、黒板等に全班の記録を記入し、そこから規則性等について考察をしていくという流れが一般的でしたが、一人一台端末の導入により、この活動を生徒一人一人の端末上で行うことが可能となり、担当の先生もこの機能を利用していました。



生徒たちは、実験結果をミラビシードのムーブノートにまとめ、提出することで、各班の結果を比較するとともに、多くのデータから事象を考察することができました。「どの班の結果も同じ傾向だ」、「他の班と比べると、私達の班の●回目の結果がずれているからもう一回やってみよう」と生徒達は科学的に実験結果を考察していました。



このように、一人一台端末の利活用が進むことにより、教科の本質に迫った授業が一層推進されています。

他の事例から学ぶ

一人一台端末の利活用が進み、使うことが当たり前前の環境が整ってきました。次は、「一人一台端末を教科の本質に迫るために効果的に使う」段階に移行していくことが求められます。そのためには、他の事例から学び、日々の授業に生かしていくことが重要です。



小・中版 ICT 活用レシピ



各教科等における1人1台端末の活用

文部科学省は、一人一台端末の利活用をスタートさせる全国の教育委員会・学校に対する支援活動を展開するため、「すくじでも」どの教科でも「誰でも」活かせる一人一台端末の活用方法に関する優良事例や本格始動に向けた対応事例などの情報発信・共有を随時行う、「StuDX Style」のサイトで、各教科における活用例を掲載しています。これらの事例から学び、教科の本質に迫るための効果的な活用を行っていきたくと考えております。